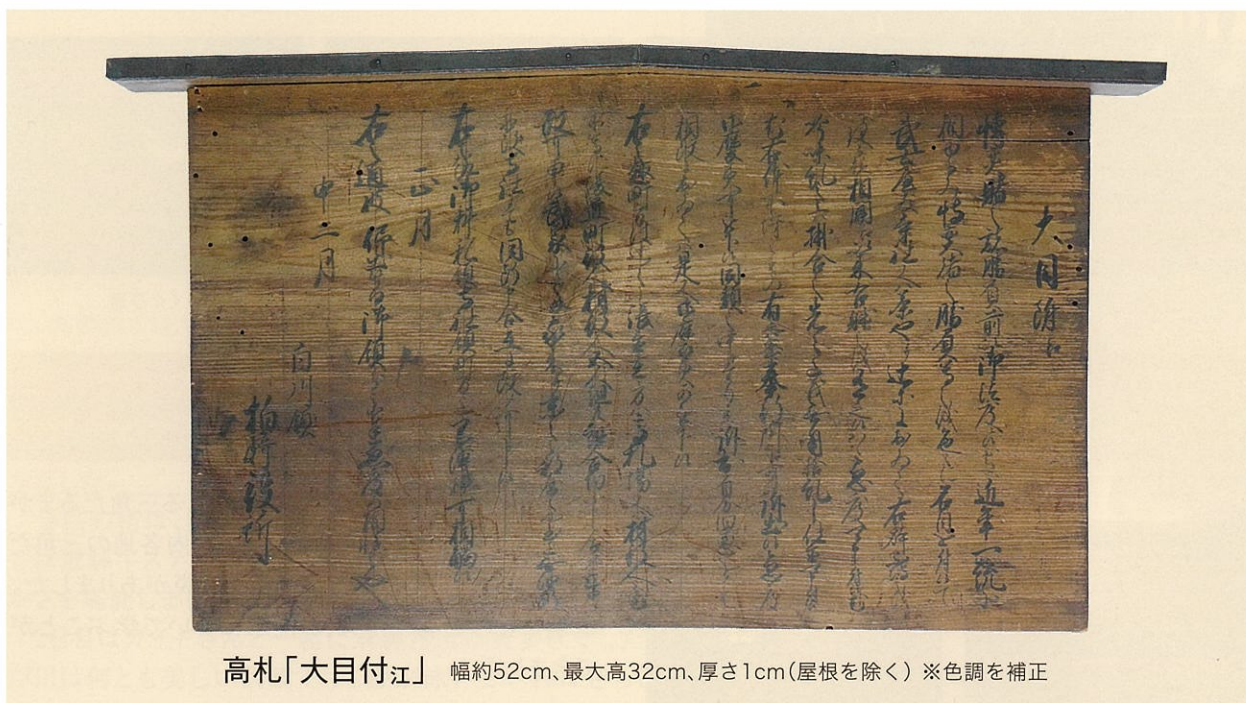


博物館モノがたり

白河藩時代の高札



高札「大目付江」 幅約52cm、最大高32cm、厚さ1cm(屋根を除く) ※色調を補正

令和7(2025)年に放送されていたテレビドラマに、松平定信(越中守/1759生~1829没)が登場していました。定信は白河藩主ですが、1741~1823年の約80年間は柏崎市域の大半が白河藩領となっていました。写真は、その白河藩領時代の高札で、博奕(ばくち)の禁止を徹底することを周知したものです。

高札の表面には、表題「大目付江」、本文12行、末尾に「右之趣 御料 私領 寺社領 町方迄不洩様可相触候/正月/右之通被 仰出候間 御領分之輩急度可相慎者也/申二月/白川領/柏崎役所」(／は改行)、裏面には「琵琶嶋村」とあります。すなわち、1月(正月)に発せられた法令が申年2月に白河(白川)藩の柏崎役所から枇杷島村(琵琶嶋村)に周知されたものであることがわかります。

しかし、残念ながら歴史の資料として重要となる年代に関しては、申年とわかるのみです。そのため、次のように考えました。まず、枇杷島村が白河藩領であった約80年間で申年は1752年・1764年・1776年・1788年・1800年・1812年の6回です。このうち1752年と1788年は1月に幕府から博奕に関する法令が出されています。そして、実際の法令史料と比較すると、1788年1月の法令がこの高札とほぼ同文であることがわかりました。したがって、この高札は天明8年(1788)1月に出された法令を翌2月に柏崎役所が村へ触れたものとなります。江戸時代後半には治安や風紀の乱れに対処するための法令が多く出されました。この高札も当時の社会を語る貴重な資料といえます。

この高札に記載されている文字などの詳細については、『柏崎市立博物館館報』第37号に報告しましたので御参照ください。また、実物は人文展示室(歴史・民俗)に展示されています。ぜひ御覧いただき、高札を考察してみてください。

(伊藤 啓雄 学芸員)

シリーズ「金の道を行く」② 県境の北国街道 ―関山・関川宿と関川関所を歩く―

9月11日(木) 8時30分～17時 参加者19名

「金の道を行く」第2回は越後と信濃の県境で「重き関所」として重要視された関山・関川宿。街道の里程を示す「北沢一里塚」に始まり、関山三社権現の門前町として栄えた関山。関山神社では小林群鳳の狛犬、鎌倉後期の頃に彫刻された仏足石、上半身のみの彫像がずらりと並ぶ「生け込み式」石仏群、復元された旧宝蔵院庭園と中世の苔むした五輪塔が点在する風景はとても美しいものでした。

「関川関所道の歴史館」では当時の旅や関所の手続きの様子をガイドさんから解説いただき、実際に関所抜けの道として多くの女人たちが通った「犬ぐりの道」を歩いてみる、という体験は当時の人々の思いや文化に触れる貴重な見学会となりました。
(会員 吉川孝子)



関山神社



関山石仏群



関山関所道の博物館



犬ぐり道

学芸員のオタク講座⑭ 柏崎のツノギョウ (三角だるま)

9月20日(土) 13時～14時30分 参加者9名



柏崎には「ツノギョウ」と呼ばれる三角だるまがありました。今回はツノギョウと県内各地の三角だるまを比較し、その様相について解説がありました。地域ごとの特徴や形状の由来について学ぶことができました。

渚の宝もの① 高浜海岸で秋のビーチコーミング 10月11日(土) 9時～11時 参加者11名

潮風を受けながら久しぶりの浜歩き。打ちあげ貝やビーチグラス、そしてヤシの実などの収穫がありました。変わったものでは、市村学芸員が動物(イルカ?)の骨格を発見し、砂から掘り出し標本として持ち帰りました。ただ今鑑定中で、結果が楽しみです。



学芸員のオタク講座⑮ 子どもの着物事情 ―江戸時代の「柏崎日記」を事例に―

11月1日(土) 13時30分～15時 参加者23名

今回は江戸時代に記された「柏崎日記」を事例に、子どもの着物事情について解説がありました。着物から当時の子どもの祝い事の様子や暮らしぶりについて学ぶことができました。また秋季企画展とも関連しており、子どもの着物に込められた健やかな成長への願いや着物にまつわる物語についてより深く知ることができました。



【一泊見学会】匠の里 飛騨と円空仏をめぐる旅

11月6日(木) 8時 ~ 7日(金) 17時 参加者18名



清峯寺



飛騨古川まつり会館



千光寺円空仏寺宝館で集合写真

円空仏を見るのは今回が初めてでした。飛騨千光寺の円空仏寺宝館を見学しました。住職によれば、円空仏は下から覗くと口元が笑って見えるとのこと。早速三十三観音像の前で下からしばし眺めていました。荒削りの中にも慈愛に満ちた表情を見せる円空仏は、一見の価値あります。また、境内には紅葉真っ盛りで、しばし景色を楽しんでいました。次に訪れた清峯寺円空堂では、1mを超える菩薩3体が紫色のカーテンの前に置かれ、暫しその姿を目に焼き付けていました。木喰仏とはまた違った雰囲気を出す円空仏に惹かれていました。

飛騨古川まつり会館を見学。映像シアターホールでは大迫力の古川祭が上映されており、見終わって祭り当日に訪れてみたいとなりました。会館では古川祭10台の屋台のうち3台が展示されており、いずれも絢爛豪華な造りででした。

今回の宿は、飛騨ともえホテル。何と言っても料理が最高でした。夕食では飛騨牛ステーキをミディアムで焼き、肉本来の甘さと旨み、そして柔らかさを堪能しました。他の料理も満足度S級でした。

2日目はガイドさんと一緒に飛騨古川の街歩きでした。白壁の土蔵と瀬戸川は何とも美しい景観です。鯉が泳いでいればさらに良かったのですが、冬季は別の場所へ避難しているとのことでした。お昼の福全寺そばは風味豊かで美味しくいただきました。最後に、この街には自動販売機が1台も見当たりませんでした。SNSで調べてみると町並みそのものが観光資源であり、大切にしていることが分かり納得しました。また訪れてみたいです。

(編集委員 田村光一)



気多若宮神社



ガイドさんと古川界隈まち歩き

手漉き和紙で作る一閑張りモビール(流木付き) 11月12日(水) 9時~12時 参加者12名

一閑張りの技法を用いたモビールづくり、まずは土台に和紙を張り付けるところから始まりました。和紙の手触りを感じながら、一枚一枚ていねいに重ねていく時間はとても心地よいものでした。

講師の先生自ら漉いた門出の和紙とのこと。想像以上にたくさんの工程があり、思うようにいかないところもありましたが、少しずつコツをつかみ、形が見えてくるたびに嬉しくなり、夢中で手を動かしていました。最後に柿渋をぬって完成したモビールは、素材の温かさと手仕事の味わいを感じます。流木につるしてみると、更にはいい感じです！

静かな集中と、あたたかい時間を共有でき感謝しています。

(会員 村山喜子)



お申込み方法

参加者募集

電話で友の会事務局(0257-22-0567)にお申込みください。

その際、参加者全員のお名前、連絡先(できれば携帯番号)、友の会会員か非会員かをお知らせください。

行事の申し込みは **1月4日(日)9時から**
受け付けいたします



布ぞうりづくり

温もりある木綿の布ぞうりでこの冬を快適に過ごしませんか?

日 時 1月22日(木) 9:00～15:00
集 合 博物館小ホール
講 師 吉田真子さん
(からむしの会会員)
定 員 12名(先着順)
用 意 エプロン・昼食
参加費 会員1,200円
非会員1,800円
(材料費含む)



学芸員のオタク講座⑰

「お洒落な縄文、小粋な弥生」

縄文時代のファッションやアクセサリを紹介し、お洒落な縄文人の姿に迫ります。また、柏崎市内から発見された出土品を中心に、弥生時代のアクセサリについても解説します。

日 時 1月31日(土) 13:00～15:00
集 合 博物館小ホール及び展示室
講 師 中野 純さん
(市立図書館)
定 員 15名(先着順)
参加費 入館料300円
(会員は優待券使用可)



季節の和菓子 桜餅をつくる

美味しい季節の和菓子を作ります。

日 時 2月19日(木) 9:00～12:00
集 合 剣野コミュニティセンター
講 師 金子豊さん(つるや菓子店店主)
定 員 15名(先着順)
用 意 エプロン・
三角巾・タオル
参加費 会員700円
非会員1,200円
(材料費含む)



渚の宝もの②

ビーチグラスのオブジェづくり

ビーチグラスや貝・陶磁片などを材料に、ハンダを使って素敵なランプシェード(足元灯)を作ります。

日 時 3月4日(水) 9:00～12:00
集 合 博物館小ホール
講 師 渚を楽しむ会会員
定 員 15名(先着順)
用 意 軍手
参加費 会員1,500円
非会員2,000円
(ミニライト・ハンダ代等含む)



田村光一さんのそば打ち道場

田村名人の手ほどきで美味しい手打ちそばを作ります。

日 時 3月18日(水) 9:00～12:00
集 合 剣野コミュニティセンター
講 師 田村光一さん(全麺協そば道段位3段)
定 員 15名(先着順)
用 意 エプロン・
三角巾・タオル
参加費 会員700円
非会員1,200円



編集後記

【友の会通信200号発行に思う】

1986年7月15日第1号発行以来、39年になります。B5版厚紙で出発し、初代館長丸田昭三氏は「会員の教養を高め活動の協力を目的とする」と綴りました。A4サイズになり、行事のお知らせや写真、会員の原稿を載せることで通信の本領を発揮していると思います。設立20周年に養老孟司氏の講演や中越地震があったりと、いろいろな経過を経て今日に至っています。以後多々あると思うが会員の皆様と乗り越えて行きたいと思います。友の会行事も来年1月に布ぞうりづくり、2月には和菓子づくり等々があります。皆様の参加をお待ちしています。

(編集委員 今井榮子)